

第17期 第4回 白石区地域部会・運営部会 議事録

日時:2026年7月15日(水)10:30~12:00

場所:白石区役所 2階会議室(窓側)

出席

田中会長、服部副会長、常盤野副会長、正岡係長、小川氏(相談室あゆみ)、林氏(ワンオール)、戸田氏(夢民)、森岡氏(たまみずき南郷)、高橋氏(サニーケア)、稲垣氏(ピアデザイン)、竹田氏(楡の会)、実習生1名、備前・牧(相談室きよサポ)

欠席

金澤氏(社協)

1. 報告・連絡事項

(1)就労部会より

- ・集まる場開催計画と発表取り扱い方針
- ・目的:年2回 関係者が身近な相談・困りごとを共有する場を設ける。
- ・開催日時:8月25日 18時30分~20:00
- ・構成案
前半:「私たちが考える事業所・支援とは何か」をテーマに議論、事業所の活動報告を交えて強み探しについて
後半:hibinosiawase 事業所による AI 活用の実践報告(5~10分)、自事業所での AI 活用を検討する GW
- ・取り扱い方針(加算・スコア算定との関係)
本部会は算定可否の事前判断や選別を行わない
厚労省の Q&A を事業所に周知し、各事業所が基準を確認のうえ自行判断で申請
算定の妥当性はその後の実地指導で評価される
- ・周知・申し込み:ポスター作製後、区役所経由でメール配信、申し込み受付を実施予定
- ・全体会との連携:小部会の実践を大テーマに発展可能なものは全体会研修で取り上げることを検討
- ・結論:開催日時と研修構成を確定し、算定判断は各事業所に委ねる方針を確認

(3)基礎研修チームより

- ・本番:来週火曜日に開催予定、申し込み急増
- ・直近の打合せ内容:資料確認、運営チームによる発表の読み合わせ・内容確認。当日の役割再調整(勤務都合による変更への対応)
- ・申込状況:参加予定者26名(ほぼ定員)、児童事業所が多い、GH約6か所。
- ・運営体制補強:B型しまりすの金子さんが運営参加希望。当日はまず研修参加後に顔つなぎの予定。
- ・結論:参加者が順調に集まり、運営体制も拡充方向で調整。

(4)子ども部会より

- ・第一回研修(実施日:6月25日) 参加者57名

- ・内容:「おがる」センター長による発達特性についての講義(約1時間)+事業所の現状・課題共有のGW
- ・アンケート:回収済、内容整理後に共有予定
- ・反省点:会場備品手配や当日の物品準備(水の用意など)に不足があった
- ・第二回研修(予定:10月後半、区役所4階で実施希望)
- ・ねらい:学校・幼稚園・保育園等との連携課題に焦点
- ・企画案:学校連携に成功している事業所の実践報告、茶話会方式の交流会を検討
- ・実務:松岡さんへ相談予定、次回会議は9月中旬に設定意向
- ・結論:第一回の所感を踏まえ、今回は教育機関との連携強化をテーマに準備を進める

■子ども部会の意見交換会

- ・8月末に開催予定。詳細は6月28日頃にメール通知見込み。
- ・目的:各区の取り組み・実践共有と交流促進。
- ・各区から4名の参加枠を確保。十区全体の子ども部会が集まる形式

2、部会長より

■札幌市障害者プラン・提言関連

- ・障害者プランは3年ごとにサービス見込み量を見直し、来年在籍当年。
- ・提言内容:ヘルパー課題、重度障害者の支給量等
- ・強度行動障害:おがるの活用が基本方針だが、敷居が高い実情。好事例集の活用とおがるの役割の広報・周知を継続。
- ・家族からの相談も多く、成人後の相談先減少が課題。
- ・札幌市発達障害支援体制整備事業におがるが事務局として参画。ペアレントメンター制度を展開。
- ・発達障害地域支援マネージャーがおがるに3名在籍し、困難・複雑ケースの支援方針検討を支援。事業所からの相談も受け付け。

■地域の課題と今後の取り組み

- ・法改正(令和6年)を契機に地域移行の悩みが増加。
- ・課題解決のため個別事案の共有と解決策模索を重視。イベントの手段化を避け、課題起点の事例集(好事例集)を年内更新予定(ヘルパー課題や中央区プロジェクトの追加)。

■各区における課題抽出と交流の在り方

- ・アンケートや交流会で課題収集を試みるが、参加者が課題を考えることに慣れておらず意見が出にくい。
- ・小さな単位(区の部会等)での困りごと検討と成功事例の共有・体験が有効との意見。
- ・各部会が集まる小単位での話を拾い上げるために重要。

■AI導入に関する考察と課題

- ・ある事業所で電話対応にAI導入。相談者が一度AIを介して職員からの連絡を待つ形式。
- ・相談者にとっての利便性・妥当性に懸念。補助金・交付金活用の背景可能性。

■各部会からの報告

- ・地区割:相談支援の地域差は本来不可だが現実には差が存在。委託支援事業所の対応力標準化が課題。

・就労支援推進部会：北海道労働局との連携強化。ハローワーク札幌・北・東担当者が運営委員として参画。2月の労働局主催「スタートアップセミナー」への連携・協力を検討。

・子ども部会：資料記載以上の特筆報告なし。

■札幌市への提言プロジェクトの進捗

・重度障害者の地域生活に関するプロジェクト等、各チームの提言取りまとめはほぼ完了し、内容確定。

・重度訪問介護の支給量決定：見守り時間を支給量に組み込むようマニュアルが改変・整備。成果は大きいがマニュアルは非公開。関連情報は参考資料「99-02 課題政治状況シート」に記載。

■白石区要対協代表者会議に関する報告

・6月24日開催。前年度と今年度予定を確認。

・札幌市教育委員会からスクールソーシャルワーカー22名配置と自立支援協議会との連携強化の報告。

・新規虐待通報の主たるリスク要因第一位は「精神疾患」で昨年度から継続。

・今後の連携：家児相入船氏・北島氏と自主連携を協議。子ども部会として田中氏が要対協実務者会議に今年度から参加。7月29日の第一回実務者会議で自立支援協議会と地域部会の役割について発表を依頼され準備中。

・結論：要対協との連携を深め、虐待問題を（特に精神疾患を抱える保護者支援）で実質的連携を期待。個別ケース以外のトピックスは部会へ情報共有。

■札幌市自立支援協議会全体会に関する報告

・地域支援生活拠点検証委員会：令和7年度課題取り組み状況について市評価。概ね達成も検討余地あり。緊急受け入れ（身体障害・行動障害）の量的課題と専門人材不足が継続課題。

・各区の部会活動：課題把握から解決着手までの流れに構築に困難。ツール活用や交流会など試行錯誤の報告。

■精神疾患をめぐる連携の課題

・要対協で虐待リスクの第一位が精神疾患。札幌市には精神特化の「にも包括」という協議体も存在。

・要対協・にも包括・自立支援協議会（部会）など精神疾患関連課題を抱えるため、組織間連携の必要性を議論。

・本来は精神のみ特別扱いせず議論すべきだが、現状では切り出さないと取り上げられない背景。制度や仕組みは異なるが要因テーマは共通で、連携の在り方が今後の課題。

■白石地域部会規定の整理と確定

・昨年度からの規定整理は草案ほぼ確定段階。実情と異なる規定・想定組織図・脆弱な体制・曖昧な仕組みの整備が必要。

・2026年6月27日にきよサポ・あゆみ・田中氏・正岡係長で草案精査し文言確定。完成次第関係者へ共有予定。

■地域部会からのお知らせメールの運用

・正岡係長から部会名で一斉送信された映画上映会案内が事前共有なしで送信された件を受け、部会名での発信情報は事前に部会内で議論・確認を経る方針を徹底。案内協力自体は否定せず、情報共有プロセスの確認を要請。

■高齢者のB型就労と工賃向上/ビジネスモデルの議論

・次回（8月12日）の議題予定だったが次回持越しとする

3. その他

・B型事業所「れのあ」による「B型ビジネスを考える会」設立呼びかけ情報が共有されたが目的は不明。

・工賃向上の工夫：希望者は始業前30分を作業時間とし、工賃対象化する事業所の取り組みを紹介。職員体制・原

資・訓練等給付との整合性に疑問がありつつ、利用者のモチベーション向上可能性を指摘。

・長時間労働による工賃アップには原資確保が不可欠との認識。

・法人内での仕事の融通は「内部」とみなされ問題化しうる一方、他社協力の受発注手法が存在するが札幌市が認識しない可能性あり。

・B 型事業所の報酬体系は将来的に時間等に応じた変更の可能性が示唆。

■告知・PR

■次回予定

日時:2026 年 8 月 12 日(水)10:30~12:00

場所:白石区役所 2 階会議室(窓側)

司会:牧氏